

プロジェクト課題 No.4

機械化一貫体系の導入による たまねぎ産地の拡大

活動期間：令和3年度～令和4年度

対 象：JAみやぎ仙南たまねぎ部会
(その他たまねぎ生産者および新規作付希望者)

チーム員：◎赤沼 岳， 阪本 松男， 森谷 和幸， 今田彩音， 高橋 洋介

課題の背景

- 管内では農地整備が計画・実施されており、高収益作物としてたまねぎの導入が進められている
- JAみやぎ仙南
令和元年10月にたまねぎ部会を設立
国庫事業（産地パワーアップ）導入により、機械設備を整備
→ **リースによる機械化と共同作業による生産の効率化【課題1】**
- 栽培技術レベル，ほ場環境，作型による収量・品質のばらつき
→ **収量・品質の向上【課題2】**

対象者の概要

○ JAみやぎ仙南たまねぎ部会

令和4年産

生産者数：15経営体

作付面積：約6.5 ha

作型：秋播き・晩秋播き

秋播き → 標準的な作型

晩秋播き → 水稻の作業と重ならない

作型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
秋播き栽培									☎		△	
晩秋播き栽培			△									☎

☎：播種・ハウス育苗

△：定植

■：収穫

課題目標と活動事項

○ 課題目標

- ◆ 導入した機械の効率的な共同利用の推進
→ 省力化と生産性の向上
- ◆ 栽培技術の向上やほ場環境の改善
→ 収量・品質の向上
- ◆ 新規生産者の確保・作付面積の拡大
→ 産地の拡大および活性化

○ 活動事項

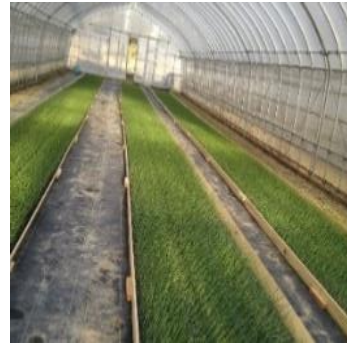
1. 栽培管理技術習得の支援および機械による適期作業の実施指導
2. たまねぎ部会活動の活性化による営農意欲の向上支援
3. 新規作付誘導支援および水田における排水対策効果・省力化技術の実証

管内におけるたまねぎ栽培の機械化一貫体系

①播種作業
(JAリース)



②育苗



③剪葉作業
(JAリース)



④定植作業
(JAリース)



⑤葉切り作業
(JAリース)



⑥根切り作業
(JAリース)



⑦玉寄せ作業
(JAリース)



⑧拾い上げ作業
(JAリース)



⑨乾燥作業
(JA委託)



⑩選別作業
(JA委託)



活動内容

1. 栽培管理技術指導および機械による適期作業の実施指導

- ・ 巡回指導や現地検討会，栽培講習会による技術支援
- ・ たまねぎ栽培マニュアルの作成
- ・ 生育調査ほ場の設置
- ・ 出荷調製会議
- ・ 定植・収穫作業指導
- ・ 乾燥選別調製状況と進捗確認 など



【現地検討会】



【生育調査】



【定植作業指導】

活動内容

2. たまねぎ部会活動の活性化による営農意欲の向上支援

- ・ 現地検討会や栽培講習会による技術支援
- ・ 先進地視察研修の実施 など



【福島県 富岡町への視察研修】



【秋田県 大潟村への視察研修】

活動内容

3. 新規作付け誘導支援および水田における排水対策効果・省力化技術の実証

- ・ 機械化一貫体系によるたまねぎ栽培の動画作成（HP掲載）
- ・ 「たまねぎ栽培研修会」の開催（2回）
- ・ ほ場整備地区の水田における排水対策効果の実証試験〔農業農村整備部〕
- ・ ドローンによる農薬散布や直播栽培などの省力化技術の実証試験〔農業・園芸総合研究所〕 など



【たまねぎ栽培研修会】



【暗渠施工（排水対策）】



【直播栽培の播種作業】

活動成果と今後に向けて

- ◎ 機械化体系によるたまねぎの生産体制はほぼ確立
- ◎ 令和5年産の作付面積は約 7.5 haとなる見込み（前年比 115 %）

しかし…

安定した収量・品質の確保が課題（令和4年産 平均反収 2.3 t/10a）

- ・ 病虫害防除および雑草対策の徹底
- ・ ほ場環境の改善（排水対策や土づくり）
- ・ 適期作業の実施 など



今後に向けて

プロジェクト課題（令和5年度～令和7年度）

仙南たまねぎの更なる生産拡大と
環境に配慮した栽培方法の実証 ※

※ グリーンな栽培体系への転換サポート事業

産地に適した「環境にやさしい栽培技術」と「省力化に資する先端技術等」を組み合わせた「グリーンな栽培体系」への転換を推進



リビングマルチ（大麦）

【令和4年度の取組】

リビングマルチによるネギアザミウマの抑制効果の実証試験を実施

今後に向けて

- 栽培技術レベル向上および適期作業の励行により，収量・品質の向上を図る
- たまねぎ栽培に取り組む生産者を確保し，産地の活性化を図る
- グリーンな栽培体系によるたまねぎの生産振興を図る

